

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|----------|--------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 工業技術基礎 | 単位数 | 3 | 学年 | 1 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | | | | | | | | |
| 補助教材等 | | 本校作成プリント | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 工業分野の技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 実習は教室で行われる授業とは異なり、様々な器具や機材を活用して行うため、身だしなみ（実習服を正しく着用する、など）・安全に対する配慮（危険度の高い装置や機器を扱うため、事故を未然に防ぐために、正しい作業手順を守る、など）・整理整頓（不要なものを机の上に置かない、使用機材を元の場所に返す、など）・協力（実習の準備や配線、測定データの取得などのグループでの協力）・積極性（傍観的にならず、積極的に実習に参加する姿勢）が大切になります。
- 自分が行った実習の内容を整理し、報告書（レポート）にまとめて提出するという作業は、実際に社会で求められる実務の一つである。定められた書式に従って作成し、決められた期限までに必ず提出してください。
- 欠席した科目については、速やかに担当者に相談して必ず補習を受けましょう。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|---|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 実習において、より基礎的な知識と技術・技能を身に付け、安全に配慮したものづくりを行うことができる。 | 実習において広い視野と倫理観を持ち、論理的な判断と表現すること。 | 実習における基礎的技術について関心と意欲を持ち、技術・技能を習得するために、積極的に実習に参加している。 |
| 主な評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの記載内容、提出状況 ・各テーマにおける製作物 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの記載内容、提出状況 ・各テーマにおける製作物 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・レポートの記載内容、提出状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|----|----|----|--|---|
| 一学期 | 4 | | | 30 | <全体> 電気実習について <第1ローテーション> ①オームの法則 ②電源・計器・抵抗器の取り扱い ③Word <第2ローテーション> ①C言語1 ②電気工事1 | ・各テーマにおける製作物(a) ・レポートの記載内容、提出状況(a)(b)(c) ・授業への取り組み(c) |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |
| 二学期 | 7 | | | 45 | ③直流安定化電源の製作 ④キルヒホッフの法則 ⑤分流と分流器 ⑥分圧と倍率器 ⑦抵抗の直並列接続 ⑧ホイートストンブリッジ ⑨マイコン基板の製作 <特別ローテーション> (他学科生徒対象) 電子工作 プリント配線の基礎を学び、部品検査 やハンダ付け作業法を身につける | |
| | 8 | | | | | |
| | 9 | | | | | |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | | | | | |
| 三学期 | 12 | | | 30 | <第3ローテーション> ①C言語2 ②電気工事2 ③マルチバイブレータの製作 ④直流電力の測定 ⑤プレゼンテーション ⑥環境実習 ⑦テスターの製作 ⑧半導体特性 ⑨電池の内部抵抗 | |
| | 1 | | | | | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

合計 105 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|-------------------------------------|--------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 工業情報数理 | 単位数 | 2 | 学年 | 1 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | 「工業情報数理」 実教出版 | | | | | | | |
| 補助教材等 | | 「情報技術検定問題集 2・3級C言語 新訂版」 全国工業高等学校長協会 | | | | | | | |

1 学習の到達目標

| |
|--|
| <p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、工業の各分野における情報技術の発展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

| |
|--|
| <p>○高度情報化社会の中で社会人として活躍するには、コンピュータ及びネットワークにかかわる基礎的な知識と技術を身につけることが不可欠です。さらに、情報化の進展が産業社会や個人に及ぼす影響を理解し、情報に対するセキュリティや情報モラルに対する知識と技術を身につけることも重要です。</p> <p>○工業の各分野における事象の数理処理に関する知識と技術を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につけることを大切です。さらに、電卓やパソコンを数理処理の道具として大いに活用し、迅速かつ合理的に数理処理できるようにしましょう。</p> |
|--|

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|---|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。 | 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |
| 主な評価方法 | ・ 定期考査 (基礎的な知識習得を問う問題) | ・ 定期考査 ・ 課題提出物の内容 | ・ 授業中の発言内容 ・ 行動観察 ・ 授業への取り組み |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|--------|--------------------|------------------------|--|--|---|
| 一学期 | 4 | 産業社会と情報技術 | 「工業情報数理」 実教出版 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報と生活、コンピュータの特徴と発達 ・情報化の進展と産業社会 ・情報化社会のモラルと管理 ・情報セキュリティの管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身につけている。(a) |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |
| 二学期 | | コンピュータの基本操作とソフトウェア | 「情報技術検定問題集2・3級C言語 新訂版」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本操作 ・ソフトウェアの基礎 ・アプリケーションソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ・諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。(b) ・情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。(c) |
| | 7 | プログラミング | | 35 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム言語とつくりかた ・アルゴリズムと流れ図、プログラミングの基礎 | |
| | 8 | ハードウェア | | | <ul style="list-style-type: none"> ・順次、選択、繰り返し処理、プログラミングの応用 | |
| | 9 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・処理装置と周辺装置 ・データの表し方 | |
| | 10 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・論理回路の基礎 | |
| 11 | ネットワーク | | | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークと通信技術 | | |
| 三学期 | 12 | コンピュータ制御 | | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ制御の概要 ・組み込み技術 | |
| | 1 | 情報技術の活用と問題の発見、解決 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディア | |
| | 2 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・単位と数理処理 ・実験と数理処理 | |
| | 3 | 数理処理 | | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|----|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電気回路 | 単位数 | 2 | 学年 | 1 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | [電気回路1] 実教出版 | | | | | | | | |
| 補助教材等 | [電気回路1・2演習ノート] 実教出版 | | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けさせる。
- (2) 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 電気に関する基礎的な知識と技術は、①個々の基本的な電気現象 ②電気現象を量的に扱う方法 ③電氣的な諸量相互関係 ④これらを合理的に処理する方法、すなわち式変形、計算法 である。これらを活用する能力を実験実習、論理的発想を通し養う。
- 関連する各種問題を解きながら、理解の度合いを観ながら授業を進める。
- 成績不振者に対しては、学期ごとに課題、追試、補習等を課す。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|--|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。 | 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |
| 主な評価方法 | ・定期考査 (基礎的な知識習得を問う問題) | ・定期考査 ・課題提出物の内容 | ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|---------|--------------------|----|-----------------------------|---|
| 一学期 | 4 | 電気回路の要素 | 教科書 問題集 補助教材 | 20 | 電気回路の電流と電圧 抵抗器・コイル・コンデンサ | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 5 | 直流回路 | | | 直流回路 | |
| | 6 | | | | 電力と熱 電気抵抗 電流の化学作用と電池 | |
| 二学期 | 7 | 静電気 | 教科書 問題集 補助教材 | 35 | 電荷と電界 コンデンサ | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 8 | | | | 絶縁破壊と放電現象 | |
| | 9 | 磁気 | | | 電流と磁界 | |
| | 10 | | | | 磁界中の電流に働く力 | |
| | 11 | | | | 磁性体と磁気回路 電磁誘導と電磁エネルギー | |
| 三学期 | 12 | 交流回路 | 教科書 問題集 補助教材 | 15 | 交流の発生と表し方 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 1 | | | | 交流回路の電圧・電流 | |
| | 2 | | | | 交流回路の電力 | |
| | 3 | | | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|------------------|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電子回路 | 単位数 | 2 | 学年 | 1 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | [電子回路] 実教出版 | | | | | | | |
| 補助教材等 | | [電子回路演習ノート] 実教出版 | | | | | | | |

1 学習の到達目標

| |
|---|
| <p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電子回路の設計・製作に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|---|

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

| |
|---|
| <p>○コンピュータ、スマートフォン、カーナビゲーションなどを使って便利で快適な生活をしている。これらの機器には[電子回路]が組み込まれている。電子回路技術は時代と共に進展し、電子機器の小型化や高機能化が実現している。</p> <p>○電子回路素子（ダイオード・トランジスタ・FET・ICなど）の機能と特徴を理解し、回路設計・製作ができる知識・技術を身に付ける。</p> <p>○関連する各種問題を解きながら、理解の度合いを観ながら授業を進める。</p> <p>○成績不振者に対しては、学期ごとに課題、追試、補習等を課す。</p> |
|---|

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|--|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。 | 電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |
| 主な評価方法 | ・定期考査 (基礎的な知識習得を問う問題) | ・定期考査 ・課題提出物の内容 | ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|---------------|--------------------|----|--|---|
| 一学期 | 4 | 電子回路素子 | 教科書 問題集 補助教材 | 20 | 半導体 | 電子回路素子や電子回路の構成などの基本的な事項の知識を持ち、動作原理を理解している。また、諸量の数式表現を理解し、それらを計算によって求めることができる。(a) 電気に関する知識と技術を活用し、各種電子回路の動作などについて自ら思考を深め、科学的に表現することができる。また、各種の測定結果をグラフに表し、実験報告書の作成ができる。(b) 電子回路の動作について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。また、各種の電子回路について関心を持ち、知識を活用する態度を持っている (c) |
| | 5 | | | | ダイオード トランジスタ FETとその他の半導体素子 集積回路 | |
| | 6 | 増幅回路の基礎 | | | 原理、基礎、増幅回路 トランジスタのバイアス回路 トランジスタによる小信号増幅回路 FETによる小信号増幅回路 | |
| 二学期 | 7 | いろいろな増幅回路 | 教科書 問題集 補助教材 | 35 | 負帰還増幅回路 | 電子回路素子や電子回路の構成などの基本的な事項の知識を持ち、動作原理を理解している。また、諸量の数式表現を理解し、それらを計算によって求めることができる。(a) 電気に関する知識と技術を活用し、各種電子回路の動作などについて自ら思考を深め、科学的に表現することができる。また、各種の測定結果をグラフに表し、実験報告書の作成ができる。(b) 電子回路の動作について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。また、各種の電子回路について関心を持ち、知識を活用する態度を持っている (c) |
| | 8 | | | | 差動増幅回路、演算増幅器 電力増幅回路 高周波増幅回路 | |
| | 9 | 発振回路 | | | 発振回路の基礎 LC、CR発振回路 | |
| | 10 | | | | 水晶発振回路 | |
| | 11 | | | | 変復調の基礎 振幅変調・復調 周波数変調・復調 その他の変調方式 | |
| 三学期 | 12 | パルス回路 電源回路 | 教科書 問題集 補助教材 | 15 | パルス波形とCR回路の応答 マル千バイブレータ 波形整形回路 制御形電源回路 スイッチング電源回路 | 電子回路素子や電子回路の構成などの基本的な事項の知識を持ち、動作原理を理解している。また、諸量の数式表現を理解し、それらを計算によって求めることができる。(a) 電気に関する知識と技術を活用し、各種電子回路の動作などについて自ら思考を深め、科学的に表現することができる。また、各種の測定結果をグラフに表し、実験報告書の作成ができる。(b) 電子回路の動作について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。また、各種の電子回路について関心を持ち、知識を活用する態度を持っている (c) |
| | 1 | | | | | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|----------|----|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 実習 | 単位数 | 3 | 学年 | 2 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | | | | | | | | |
| 補助教材等 | | 本校作成プリント | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 電気分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 電気分野の技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 電気分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 実習は教室で行われる授業とは異なり、様々な器具や機材を活用して行うため、身だしなみ（実習服を正しく着用する、など）・安全に対する配慮（危険度の高い装置や機器を扱うため、事故を未然に防ぐために、正しい作業手順を守る、など）・整理整頓（不要なものを机の上に置かない、使用機材を元の場所に戻す、など）・協力（実習の準備や配線、測定データの取得などのグループでの協力）・積極性（傍観的にならず、積極的に実習に参加する姿勢）が大切になります。
- 自分が行った実習の内容を整理し、報告書（レポート）にまとめて提出するという作業は、実際に社会で求められる実務の一つである。定められた書式に従って作成し、決められた期限までに必ず提出してください。
- 欠席した科目については、速やかに担当者に相談して必ず補習を受けましょう。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|----------------------------------|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 実習において、より発展的な知識と技術・技能を身に付け、安全に配慮したものづくりを行うことができる。 | 実習において広い視野と倫理観を持ち、論理的な判断と表現すること。 | 実習における発展的技術について関心と意欲を持ち、技術・技能を習得するために、積極的に実習に参加している。 |
| 主な評価方法 | ・レポートの記載内容、提出状況 ・各テーマにおける製作物 | ・レポートの記載内容、提出状況 ・各テーマにおける製作物 | ・授業への取り組み ・レポートの記載内容、提出状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|----|-----------------|----|--------------------|--|
| 一学期 | 4 | | | 30 | ① リレーシーケンス制御 | <ul style="list-style-type: none"> ・各テーマにおける製作物 (a) ・レポートの記載内容、提出状況 (a) (b) (c) ・授業への取り組み (c) |
| | 5 | | | | ② マイコンカーの製作 1 | |
| | 6 | | | | ③ C言語 | |
| | | | | | ④ ダイオードの静特性 | |
| | | | | | ⑤ ダイオードの整流回路 | |
| | | | | | ⑥ 接地抵抗の測定 | |
| 二学期 | 7 | | | 45 | ⑦ 直流電動機の特 性 | |
| | | | | | ⑧ 直流発電機の負荷特性 | |
| | 8 | | | | ⑨ 直流発電機の無負荷特性 | |
| | | | | | ⑩ 交流回路 | |
| | 9 | | | | ⑪ 電気工事 | |
| | | | | | ⑫ オシロスコープによる交流波形測定 | |
| | 10 | | | | ⑬ 単相変圧器の特 性 | |
| | | | | | ⑭ マイコンカーの製作 2 | |
| | 11 | | | | ⑮ トランジスタの静特性 | |
| | | | | | ⑯ トランジスタの増幅回路 | |
| 三学期 | 12 | | | 30 | ⑰ PLCによる制御 | |
| | | | | | ⑱ 論理回路の基礎 | |
| | 1 | | | | ⑲ エクセル | |
| | 2 | | | | ⑳ 共振回路の特性試験 | |
| | | | | | ㉑ C-R直列回路の過渡現象 | |
| | 3 | | | | ㉒ 交流回路の力率改善 | |
| | | | ㉓ マイコン制御 | | | |
| | | | ㉔ トランジスタのバイアス回路 | | | |
| | | | ㉕ 電気通信 | | | |

合計 105 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|---------------------|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電気回路 | 単位数 | 2 | 学年 | 2 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | [電気回路2] 実教出版 | | | | | | | |
| 補助教材等 | | [電気回路1・2演習ノート] 実教出版 | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けさせる。
- (2) 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 電気に関する基礎的な知識と技術は、①個々の基本的な電気現象 ②電気現象を量的に扱う方法 ③電氣的な諸量相互関係 ④これらを合理的に処理する方法、すなわち式変形、計算法 である。これらを活用する能力を実験実習、論理的発想を通し養う。
- 関連する各種問題を解きながら、理解の度合いを観ながら授業を進める。
- 成績不振者に対しては、学期ごとに課題、追試、補習等を課す。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|---|--|--|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。 | 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |
| 主な評価方法 | ・定期考査 (基礎的な知識習得を問う問題) | ・定期考査 ・課題提出物の内容 | ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|-------------------------------|--------------------|----|----------------------------------|---|
| 一学期 | 4 | 交流回路の計算 三相交流 | 教科書 問題集 補助教材 | 20 | 記号法の取り扱い 記号法による計算 回路に関する定理 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに関心を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 5 | | | | 三相交流の基礎 | |
| | 6 | | | | 三相交流回路 | |
| 二学期 | 7 | 三相交流 電気計測 各種の波形 | 教科書 問題集 補助教材 | 35 | 三相電力 回転磁界 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに関心を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 8 | | | | 測定量の取り扱い 電気計器の原理と 構造 | |
| | 9 | | | | 基礎量の測定 | |
| | 10 | | | | 非正弦波交流 | |
| | 11 | | | | | |
| 三学期 | 12 | 各種の波形 | 教科書 問題集 補助教材 | 15 | 過渡現象 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電気的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身に付ける。(a) ・基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用し、導き出した考えを的確に表現できる(b) ・基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに関心を持ち電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる(c) |
| | 1 | | | | 総合演習 | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|---------------------------|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電気機器 | 単位数 | 2 | 学年 | 2 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | 「電気機器」実教出版 | | | | | | | |
| 補助教材等 | | 「電気機器 演習ノート」実教出版、本校作成プリント | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、電気機器を活用した工業生産に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 電気機器についてエネルギーの変換を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 電気機器に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 電気機器に関わる電気エネルギーを活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 電気機器の原理は、すでに学び、あるいは学びつつある科目「電気回路」の応用なので、それと連携をとりながら学習を進めていきます。また、その原理は、表面的にばらばらに見えても、根底には一貫した考え方があるので、その考え方をできるだけ早く修得するように心掛けましょう。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は事前に調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 成績不振者に対しては、学期ごとに課題、追試、補習等を課します。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|--|---|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 電気機器に関する基礎的な知識を元に、さらに応用するための技術・技能を身に付けている。 | 電気機器に関する基礎的な論理を応用させながら理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 発電機、電動機、変圧器およびこれらに付属する機器について、原理・構造・特性・用途などに興味を持ち、積極的に学習に取り組むとともに、技術者としての態度を身に付けようとしている。 |
| 主な評価方法 | ・ 定期考査の結果 | ・ 定期考査の結果 ・ 課題の記述内容と提出状況 | ・ 授業への取り組み ・ 課題の記述内容と提出状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|-------------------------|----------------|--|--|--|
| 一学期 | 4 | 第1章 直流機 | 「電気機器」実 教出版 | 20 | 1. 直流機 2. 直流発電機 3. 直流電動機 4. 直流機の定格 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種電気機器の原理・特徴を理解し、その取り扱いが正しくできる。(a) ・各種電気機器の利用技能について、正しく理解できる。(a) ・電気回路および電気実習の学習で修得した関連知識を生かし、電気機器について発展的に思考・考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。(b) ・発電機、電動機、変圧器およびこれらに付属する機器について、原理・構造・特性・用途などに興味を持ち、積極的に学習に取り組むとともに、技術者としての態度を身に付けようとしている。(c) |
| | 5 | 第2章 電気材料 | | | 1. 導電材料 2. 磁性材料 3. 絶縁材料 | |
| 二学期 | 7 | 第3章 変圧器 | | 35 | 1. 変圧器の構造と理論 2. 変圧器の特性 3. 変圧器の結線 4. 各種変圧器 | |
| | 8 | | | | 1. 三相誘導電動機 2. 各種誘導機 | |
| | 9 | 第4章 誘導機 | | | 1. 三相同期発電機 2. 三相同期電動機 | |
| | 10 | 第5章 同期機 | | | 1. 小型モータ 2. 電動機の活用 | |
| 三学期 | 11 | 第6章 小型モータと 電動機の活用 | 15 | 1. パワーエレクトロニクスと半導体デバイス 2. 整流回路と交流電力調整回路 3. 直流チョッパ 4. インバータとその他の変換装置 | | |
| | 12 | 第7章 パワーエレクトロニクス | | | | |
| | 1 | | | | | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|---------------------|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電力技術 | 単位数 | 2 | 学年 | 2 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | [電力技術2] 実教出版 | | | | | | | |
| 補助教材等 | | [電力技術1・2演習ノート] 実教出版 | | | | | | | |

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電力を供給する技術を活用した工業生産に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対し解決する力を養う
- (3) 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○電力に関する応用的な科目であり、照明、電気加熱、制御、電気化学、電気鉄道、その他の電力応用製品の原理を理解できるように授業を展開する。

○電気実習と密接に連携をはかりながら授業を展開し、知識や技術の着実な定着を心掛ける。

○関連する各種問題を解きながら、理解の度合いを観ながら授業を進める。

○成績不振者に対しては、学期ごとに課題、追試、補習等を課す。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|---|---|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | 電力の利用と制御に関する知識・論理的な考えを元に、それを活かすための技術・技能を身に付けている。 | 電力の利用と制御に関する論理的思考について理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 電力の利用と制御に関する論理的思考について理解を深め、技術者として適切に判断し、取り組む姿勢を身に付けている。 |
| 主な評価方法 | ・定期考査 (基礎的な知識習得を問う問題) | ・定期考査 ・課題提出物の内容 | ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単元 | 教材 | 時数 | 学習内容 | 評価規準 |
|-----|----|-----------|--------------------|----|--|--|
| 一学期 | 4 | 照明 | 教科書 問題集 補助教材 | 20 | 光と放射エネルギー 光の基本量と測定法 | さまざまな電気現象や電気技術を応用する能力が身につけており、技術的に対応することができる。 各種の公式を正しく理解し、正確に計算ができる。 (a) 電気回路などで習得した知識や技能を生かし、電力技術2の内容を身につけ、さらにこの教科の内容を発展的に思考・判断し、考え方を的確に表現できる能力を身につける(b) 照明、電気加熱などに興味・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度が身につけている。(c) |
| | 5 | | | | 光源、照明設計 | |
| | 6 | 電気加熱 | | | 電熱基礎 各種の電熱装置 電気溶接 | |
| 二学期 | 7 | 電力の制御 | 教科書 問題集 補助教材 | 35 | 制御の概要 | さまざまな電気現象や電気技術を応用する能力が身につけており、技術的に対応することができる。 各種の公式を正しく理解し、正確に計算ができる。 (a) 電気回路などで習得した知識や技能を生かし、電力技術2の内容を身につけ、さらにこの教科の内容を発展的に思考・判断し、考え方を的確に表現できる能力を身につける(b) 自動制御、電気化学などに興味・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度が身につけている。(c) |
| | 8 | | | | シーケンス制御 | |
| | 9 | | | | フィードバック制御 コンピュータと制御 | |
| | 10 | 制御の活用事例 | | | | |
| | 11 | 電気化学 | | | 電池 表面処理 電解化学工業 | |
| 三学期 | 12 | 電気鉄道 | 教科書 問題集 補助教材 | 15 | 電気鉄道の特徴と方式 | さまざまな電気現象や電気技術を応用する能力が身につけており、技術的に対応することができる。 各種の公式を正しく理解し、正確に計算ができる。 (a) 電気回路などで習得した知識や技能を生かし、電力技術2の内容を身につけ、さらにこの教科の内容を発展的に思考・判断し、考え方を的確に表現できる能力を身につける(b) 電気鉄道、さまざまな電力応用などに興味・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度が身につけている。(c) |
| | 1 | 鉄道線路 | | | | |
| | 2 | さまざまな電力応用 | | | 電気車 信号と保安、特殊鉄道 | |
| | 3 | | | | ヒートポンプ 加熱調理機 静電気現象の応用 超音波とその応用 自動車への応用 | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|--------------|----|----|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 課題研究 | 単位数 | 3 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 副教材 | | | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|---|------------------------------|----------------------------------|
| 目標 | 工業に関する課題を自ら設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な能力や知識を総合的に会得することを目標とし、自発的・創造的な学習態度を身につける。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 電気的な事象に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 | 電気的な事象を理論的に探求でき、過程や結果を的確に表現できる。 電気的な事象を総合的に考え、事実に基づき科学的に判断できる。 | 安全や環境に配慮し、計画的・合理的に技術を活用している。 | 電気的な事象についての原理・法則を理解し、知識を身につけている。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|-------------|---|---|---|---|-----------------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | ○ | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | | | レポート提出、論理的な記載 |
| 製作物 | | | ◎ | | 各テーマにおける製作物 |
| プレゼンテーション能力 | | ◎ | | ○ | 年3回の課題研究発表会での評価 |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|---|
| <p>個人で研究するので、計画的に研究・作業を進める。</p> <p>時間中に達成できなかったことについては、放課後等を利用する。</p> <p>個人テーマを選定し、個人個人の研究テーマに沿った学習、研究、実験を実施する。</p> <p>成績評価基準は次の点に注目し、総合的に判断する。</p> |
|---|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-----|-----|----------------|------|------|
| 一学期 | 4月 | 研究テーマ決定・年間計画作成 | | 30 |
| | 5月 | 研究作業 | | |
| | 6月 | 中間発表 | | |
| 二学期 | 7月 | 研究作業 | | 45 |
| | 8月 | 研究作業 | | |
| | 9月 | 研究作業 | | |
| | 10月 | 研究まとめ・総合的考察 | | |
| | 11月 | 中間発表 | | |
| 三学期 | 12月 | プレゼンテーション作成 | | 30 |
| | 1月 | レポート作成 | | |
| | 2月 | 発表 | | |
| | 3月 | | | |

合計 105 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|--------------|----|----------|----|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 実習 | 単位数 | 3 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 副教材 | | 本校作成プリント | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|---|----------------------------------|--|-------------------------------------|
| 目標 | 実験・実習を通して、電気・工業の基礎的な知識と技術の習得をしながら、工業技術に対する関心と広い視野を養う。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 実習における基礎的技術について関心と意欲を持ち、工業の意義や役割を理解している。 | 実習において広い視野と倫理観を持ち、論理的な判断と表現すること。 | 実習において、より基礎的・基本的な技術と技能を身に付け、安全に配慮したものづくりを行うことができる。 | 実習において、幅広い知識と視野を持ち、工業の意義や役割を理解している。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|---------------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | | ○ | レポート提出、論理的な記載 |
| 製作物 | | | ◎ | | 各テーマにおける製作物 |
| | | | | | |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは必ず期限内に提出すること。 ・欠席した科目については、担当者に相談の上補習を必ず受ける事とする。 |
|---|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-------------|-----|--|------|------|
| 一 学 期 | 4月 | <第1ローテーション> ① 三相誘導電動機の特徴 | | 30 |
| | 5月 | ② ロボット制御 ③ リレーシーケンス制御 ④ 微分・積分・波形整形回路 | | |
| | 6月 | ⑤ P I Cマイコンカーの制御 I ⑥ ウィーンブリッジ型発振回路 ⑦ フィルターの特徴 | | |
| 二 学 期 | 7月 | ⑧ 交流ブリッジによるL・Cの測定 | | 45 |
| | 8月 | <第2ローテーション> ① 変圧器の三相結線 | | |
| | 9月 | ② 三相同期発電機の特徴 ③ シーケンス制御の応用 (P L C応用) | | |
| | 10月 | ④ リレーシーケンス制御応用 ⑤ トライアックによる位相制御 | | |
| | 11月 | ⑥ オペアンプの特徴測定 ⑦ P I Cマイコンカーの制御 II ⑧ ロボット制御 | | |
| 三 学 期 | 12月 | <第3ローテーション> ① F E Tの特徴 ② センサ応用回路とA/D・D/A変換回路 ③ IC論理回路 | | 30 |
| | 1月 | ④ 個人別テーマ実習 | | |
| | 2月 | | | |
| | 3月 | | | |

合計 105 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|---------------------|----|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 製図 | 単位数 | 2 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | 「電気製図」 実教出版 | | | | | | | |
| 副教材 | | 「電気・電子製図練習ノート」 実教出版 | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|---|---|-----------------------------------|
| 目標 | 製図に関する基礎的な知識と技術を取得し、実際に活用する能力と態度を育てる。また、CADの基礎を学び使い方を取得する。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 製図に関する日本工業規格及び電気分野の製図に関する関心・意欲・態度を身につける | 電気分野の製図に関する製作図・設計図を構想し、適切に表現する能力を身につける。 | 電気分野の製図に関する技術を習得し、製作図・設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力を身につける。 | 製図に関する日本工業規格及び電気分野の基礎的な内容を理解すること。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|-----------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ○ | ◎ | ○ | 製作図・設計図提出 |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|-----------------------------|
| 授業で実施する製図課題を丁寧に仕上げることを心がける。 |
|-----------------------------|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-----|-----|-------------------|----------|------|
| 一学期 | 4月 | 製図の基礎 ・線と文字の練習 | | 20 |
| | 5月 | ・線分の等分 | | |
| | 6月 | ・角の等分 ・曲線の練習 | | |
| 二学期 | 7月 | 製図法の基礎 ・投影図 | CADの基礎 | 30 |
| | 8月 | 機械要素の基礎 | | |
| | 9月 | ・ボルトナット小ネジ | | |
| | 10月 | 電気製図 | CADの応用製図 | |
| | 11月 | 電子回路図 | | |
| 三学期 | 12月 | 電気設備 | | 20 |
| | 1月 | 屋内配線図 | | |
| | 2月 | | | |
| | 3月 | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|----|------------------------|------|-----|---|----|---|---|---------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電力技術 | 単位数 | 3 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科 |
| 使用教科書 | | 「電力技術1 新訂版」 実教出版 | | | | | | | |
| 副教材 | | 「電力技術1・2演習ノート新訂版」 実教出版 | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 現代社会には無くてはならない電気エネルギーについて、その発電方法を供給するエネルギー側から見て、どのように電気エネルギーに変換するか学習する。発生した電気エネルギーを効率よく変圧、送電、配電するための技術、安定供給や、安全対策などについて学習し、知識を深める。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 電力技術に関する基礎的な知識と関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。 | 電力技術に関する論理的思考について理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 電力技術に関する論理的な考えを元に、それを活かすための技術・技能を身に付けている。 | 電力技術に関する基礎的な知識と理解を持ち、現代社会における意義や役割を理解している。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|-----------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | ○ | | 課題提出 |
| 定期考査 | | | ○ | ◎ | 定期考査（年5回） |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| <p>電力に関する基本的な科目であり、発電から送・配電、工場や一般家庭への安定供給のための理論を系統的に理解できるように授業を展開する。</p> <p>電気実習と密接に連携をはかりながら授業を展開し、知識や技術の着実な定着を心掛ける。</p> <p>関連する各種問題を解きながら、理解の度合いを観ながら授業を進める。</p> <p>成績不振者に対しては、学期毎に課題、追試、補習等を課す。</p> |
|--|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-----|-----|--|--------|------|
| 一学期 | 4月 | 発電 ・発電方式 | 中間左記範囲 | 30 |
| | 5月 | ・水力発電 概要、理論水力、発電所の種類、水車の種類等 | | |
| | 6月 | ・火力発電 概要、蒸気のする仕事、発電所の設備 熱サイクルと熱効率 省エネルギー対策、環境対策 | 期末左記範囲 | |
| 二学期 | 7月 | ・原子力発電・その他 原子力エネルギー、原子力発電 | 中間左記範囲 | 45 |
| | 8月 | 送電 ・送電方式 | | |
| | 9月 | ・送配電系統の構成 ・送電のしかた ・送電線路 | | |
| | 10月 | ・架空送電線路の電気的特性 ・等価回路 ・電圧降下 | 期末左記範囲 | |
| | 11月 | ・地中送電線路 ・電力ケーブルの電気的特性等 ・送電の運用 | | |
| 三学期 | 12月 | 配電 ・配電系統の構成 ・線路の構成 | 期末左記範囲 | 30 |
| | 1月 | ・設備容量 ・架空配電線路 ・地中配電線路等 | | |
| | 2月 | ・配電線路の電気的特性 | | |
| | 3月 | 屋内配線 ・自家用電気設備、屋内配線、 電気関係法規 | | |

合計 105 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|--------------|----|---------------------------|--------|-----|---|----|---|---|----------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電子計測制御 | 単位数 | 2 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科科 |
| 使用教科書 副教材 | | 「電子計測制御」 実教出版 本校作成プリント | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 電子計測制御に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を育てる。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 電子計測制御に関する基礎的な知識と関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。 | 電子計測制御に関する論理的思考について理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 電子計測制御に関する論理的な考えを元に、それを活かすための技術・技能を身に付けている。 | 電子計測制御に関する基礎的な知識と理解を持ち、現代社会における意義や役割を理解している。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|-----------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | ○ | | 課題提出 |
| 定期考査 | | | ○ | ◎ | 定期考査（年5回） |
| | | | | | |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|------------------------------|
| 成績不振者に対しては、学期毎に課題、追試、補習等を課す。 |
|------------------------------|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-----|-----|--|--------|------|
| 一学期 | 4月 | 電子計測制御の考え方 ・電子計測制御の考え方 ・センサとアクチュエータ | 中間左記範囲 | 20 |
| | 5月 | ・データ変換と処理 ・電子計測機器 | | |
| | 6月 | シーケンス制御 ・シーケンス制御の基礎 ・シーケンス制御に使われる機器 | 期末左記範囲 | |
| 二学期 | 7月 | ・シーケンス制御の基本回路 ・プログラマブルコントローラ | 中間左記範囲 | 30 |
| | 8月 | フィードバック制御 ・フィードバック制御の基礎 | | |
| | 9月 | ・伝達関数 ・ブロック線図 ・ボード線図 | | |
| | 10月 | ・フィードバック制御系の応答と安定性 ・フィードバック制御システムの制御装置 ・フィードバック制御システムの実例 | | |
| | 11月 | | 期末左記範囲 | |
| 三学期 | 12月 | コンピュータによる制御 ・コンピュータ制御の基礎 | 期末左記範囲 | 20 |
| | 1月 | ・制御装置とインタフェース ・制御プログラム | | |
| | 2月 | ・コンピュータにおける計測制御システム | | |
| | 3月 | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|--------------|----|---|------|-----|---|----|---|---|----------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電気理論 | 単位数 | 2 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科科 |
| 使用教科書 副教材 | | 「電気基礎2」 オーム社、「電子回路 一新訂版」 実教出版 本校作成プリント | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 1・2年次に学んだ電気・電子に関する電気現象や原理をより深く学び、また電氣的ないろいろな量の相互関係を理解するとともに、自学自習を繰り返しながら学習し、これらを実際に活用する能力と態度を養うことを目標とする。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 電気基礎に関する基礎的な知識と関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。 | 電気基礎に関する論理的思考について理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 電気基礎に関する論理的な考えを元に、それを活かすための技術・技能を身に付けている。 | 電気基礎に関する基礎的な知識と理解を持ち、現代社会における意義や役割を理解している。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|-----------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | ○ | | 課題提出 |
| 定期考査 | | | ○ | ◎ | 定期考査（年5回） |
| | | | | | |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|------------------------------|
| 成績不振者に対しては、学期毎に課題、追試、補習等を課す。 |
|------------------------------|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-----|-----|-----------------------------------|--------|------|
| 一学期 | 4月 | 電気基礎分野 ・電気回路と材料 | 中間左記範囲 | 20 |
| | 5月 | ・電流の働き ・電流と磁気 ・電磁誘導作用 | | |
| | 6月 | | | |
| 二学期 | 7月 | ・静電気の働き ・電子計測の基礎 ・交流の基礎 | 中間左記範囲 | 30 |
| | 8月 | 電子回路 ・電子回路素子 | | |
| | 9月 | ・電子回路素子 ・増幅回路の基礎 ・いろいろな増幅回路 | | |
| | 10月 | ・発振回路 | | |
| | 11月 | | | |
| 三学期 | 12月 | 電子回路 ・変調回路 ・復調回路 | 期末左記範囲 | 20 |
| | 1月 | ・パルス回路 ・電源回路 | | |
| | 2月 | 総合問題 | | |
| | 3月 | | | |

合計 70 時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|--------------|----|---|------|-----|---|----|---|---|----------|
| 教科 | 工業 | 科目 | 電力応用 | 単位数 | 3 | 学年 | 3 | 科 | 電気電子工学科科 |
| 使用教科書 副教材 | | 「電気機器」 実教出版、「電力技術2 新訂版」 実教出版 「電気機器 演習ノート」 実教出版 | | | | | | | |

1. 科目の目標と評価の観点

| | | | | |
|-------|--|--|--|--|
| 目標 | 産業分野および科学分野に利用されている、電力技術を応用した技術と自動制御技術の習得と、広い分野の電気エネルギーの利用の基本原理や、その仕組みの習得を目標とする。 | | | |
| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
| | 電気機器に関する基礎的な知識を応用しながら、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。 | 電気機器に関する基礎的な論理を応用させながら理解を深め、技術者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 電気機器に関する論理的な考えを元に、さらに応用するための技術・技能を身に付けている。 | 電気機器に関する基礎的な知識をさらに応用させ、現代社会における意義や役割を理解している。 |

2. 評価方法

| 評価方法・観察 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な項目 |
|---------|---|---|---|---|-----------|
| 学習状況の観察 | ◎ | | | | 授業への取り組み |
| 提出物 | | ◎ | ○ | | 課題提出 |
| 定期考査 | | | ○ | ◎ | 定期考査（年5回） |
| | | | | | |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|------------------------------|
| 成績不振者に対しては、学期毎に課題、追試、補習等を課す。 |
|------------------------------|

4. 年間学習計画

| | | 学習の内容 | 考查範囲 | 予定時数 |
|-------------|-----|---|--------|------|
| 一 学 期 | 4月 | 電力 ・直流機 (誘導起電力、電動機のトルク、電動機の回転数等) | 中間左記範囲 | 30 |
| | 5月 | ・変圧器 (巻数比、電圧変動率、並行運転等) ・誘導機 (同期速度、すべり、その他) | | |
| | 6月 | ・同期機 (回転数、始動、その他) | 期末左記範囲 | |
| 二 学 期 | 7月 | 自動制御 ・自動制御の概要 ・シーケンス制御 | 中間左記範囲 | 45 |
| | 8月 | ・フィードバック制御 ・コンピュータによる制御 | | |
| | 9月 | ・コンピュータと制御 ・制御用コンピュータ ・コンピュータによる制御 | | |
| | 10月 | さまざまな電力応用 ・ヒートポンプ | 期末左記範囲 | |
| | 11月 | ・加熱調理器、 | | |
| 三 学 期 | 12月 | さまざまな電力応用 ・静電気現象の応用 ・超音波とその応用、 | 期末左記範囲 | 30 |
| | 1月 | ・自動車への応用 | | |
| | 2月 | 総合問題 ・重要事項の整理 ・応用問題 | | |
| | 3月 | ・出題形式別のまとめ | | |

合計 105 時間